

した、特に前首相濱口雄幸氏に對しては多大の政治資金を援助した。濱口氏の如き嚴正一  
點張りの政治家が、能く大政黨を引具して、  
首相の位地を占め得たのは一面に仙石氏の莫  
大なる物質的援助があつたからである。濱口  
氏一度狙撃せられて以來の仙石氏の感慨は、  
口にこそ出さね、顔にこそ現はさねど實に無  
限のものであつた。濱口氏が入院中の費用も  
仙石氏の援助大なるものがあると傳へられる

## ○

仙石氏は元來自己の財を考へる様な人物ではなかつたが、事業に就ての機會を摑む事は  
實に俊敏であつたから、日本の鐵道及び水電  
事業の發達するに從ひ自然に財が出來たので  
あらう。一時は數百萬の巨財に達した事もあ  
つたが、別に邪魔物らしくもなく平氣であつ  
た。然し憲政會時代から總選舉のある度には  
盛んに後進を援助した、特に濱口内閣の總選  
舉に於ては最後の大援助をした、其上に東電の  
株價なども三分一以下に暴落したので、最近に  
於ては麻布の邸宅を賣拂ひ、相州片瀬の  
邸に家族を移してゐた。

## ○

大學に於ける一個の亂暴少年が、思ふ儘に  
働き、思ふ儘に財を散じ、遂に天下の何物にも  
届托しなかつた、また一世の快心事ではないか。

今や悠々、白雲に座して此俗界を眺むる、  
仙石貢氏の莞爾たる面影を偲ぶものである。  
(十一月十四日、一記者)

### 仙石貢氏の経歴

安政四年二月高知市に生る。

明治十一年七月東京大學理學部土木工學科  
卒業

同年九月東京府土木掛

明治十四年東京府を辭職し舊東北鐵道の創  
立事務に從事

明治・七年二月工部省御用掛

明治十八年十二月鐵道權少技長

明治十九年五月鐵道四等技師  
明治二十一年六月鐵道工事實地取調のため  
歐米各國巡回を命ぜらる（約一ヶ年半）  
明治二十三年五月鐵道三等技師  
明治二十四年工學博士の學位を得  
明治二十六年三月鐵道會議々員  
明治二十九年四月遞信省 鐵道技監高等官  
二等  
同年九月鐵道局運輸課長心得兼汽車課長心得  
同年十月依願免本官、筑豐鐵道專務取締役  
社長  
明治三十年八月九州鐵道專務取締役副社長  
翌年四月社長に就任  
明治三十九年四月滿鐵設立委員  
明治四十四年十月猪苗代水力電氣會社專  
務取締役社長  
大正三年四月鐵道院總裁  
大正四年三月高知縣選出代議士に當選  
同年四月大禮使參與官  
同年九月依願免本官  
大正十三年六月任鐵道大臣  
大正十五年六月依願免本官  
昭和四年八月滿鐵總裁就任  
昭和六年六月病氣のため辭任

（11頁より續く）

「發電機が決らないから基礎の設計が出來ま  
せん」

そこで直に發電機の係と打合して基礎を決  
定せしめる。又は水門の工事に就て進工狀況  
を聞き、遅滯してゐるヶ所があれば直に其原  
因を調査して忽ち其解決の方法を執ると言ふ  
風で、各工事の見込が付いたら、後は各擔當  
者に任すから一生懸命にやつて呉れと云ふ有  
様であつた。

要するに猪苗代水電の大工事を、あの當時  
何等の不安なく完全に竣工する事が出來たの  
は、仙石社長の用意周到なる計畫と實行に依  
るものと自分は感服してゐる。（文責在記者）